

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『 社会人として自立し、自身の夢を実現させ、地域や社会に貢献できる人材を育てる学校 』
1 「社会人としての素養」を育む 「時間を守る」「挨拶ができる」といった基本的な生活習慣を確立し、時には厳しく寄り添いながら生徒への指導・支援を行い、生徒の「豊かな心」、「自尊感情」、「規範意識」を育てる。将来、地域の指導者として活躍できる人材の育成に力を注ぐ。
2 「確かな学力」を育む 基礎学力の定着を目標に、生徒自らが主体的に学び、考えをまとめ、発表できる力を育成する。また、教職員の「授業改善」に対する組織的な取り組みを推進する。
3 「未来を拓く力」を育む 生徒一人ひとりが自らの将来像を描き、希望や適性等に応じた進路を実現できる力を育む。また様々な課題を抱え支援を必要とする生徒に対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校と連携をしながら、すべての生徒が安心して学校生活を送れる教育環境づくりに努める。

2 中期的目標

1 進路を切り拓く力の育成 (1) 「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 「主体的・対話的で深い学び」に基づいた「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。 イ 教職員相互の授業見学・研究授業および教員研修等を通して「授業改善」を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業理解度 85%以上にする。(R04：83%、R05：82%、R06：84%) (2) 基礎学力の定着に向けた取組みの推進 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。 イ 1人1台端末や電子黒板、プロジェクタ等の ICT 機器を活用し、個別最適な学びや協働の学びを充実させることで基礎学力の育成・向上を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の教え方を工夫に対する肯定度 95%以上にする。(R04：89%、R05：91%、R06：92%) (3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア 「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。 イ 多様な進路に対応するため、就職指導・進学指導・キャリア支援等の取組みを充実させる。 ウ 希望する進路の実現に向けて、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度 85%以上を維持する。(R04：89%、R05：89%、R06：93%)
2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養 (1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア 生徒が安心して相談できる環境をめざして、課題を抱える生徒の状況を生徒支援会議で的確に把握・支援できる体制を推進する。 ※ 保護者向け学校教育自己診断の学校への相談に対する肯定度 80%以上にする。(R04：65%、R05：70%、R06：79%) イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために保護者、子ども家庭センター（子ども相談所）および各市町村の福祉関係機関などとの連携を図る。 (2) 生徒の「規範意識」、「自己有用感」、「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。 イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、社会性を育む。 ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。
3 安全・安心で魅力ある学校づくり (1) 生徒が安心して安全に生活できる環境づくり ア PTA と連携して、生徒が安心して過ごせる安全・安心な教育環境整備をすすめる。 ※ 学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を生徒・保護者とも 60%以上にする。 (R04：生徒 63%、保護者 52%、R05：生徒 67%、保護者 49%、R06：生徒 70%、保護者 57%) イ 保護者への積極的な情報提供・発信に取り組むとともに、個人情報の適正管理を徹底する。 ウ 地域との連携を通して、様々な安全教育に取り組む。 (2) 地域に貢献できる人材の育成 ア「総合的な探究の時間」を通して、地域の様々な課題に取り組むことで連携強化を図るとともに、地域に貢献できる人材を育成する。
4 学校力の向上と働き方改革の推進 (1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 (2) 教職員が、ともに助け支え合う働きやすい職場環境をつくる。 (3) 機能統合による閉校に向けた取組みとともに教育環境の向上・充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 6 年度値〕	自己評価
-------	----------	-------------	---------------	------

1 進路を切り拓く力の育成	(1)「わかる授業、魅力ある授業」をめざした授業改善 ア 「主体的・対話的で深い学び」による「わかる授業」を展開し、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。	ア・本校の「卒業までに生徒につけたい力」のもと、グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業研究を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」を通して「確かな学力」の育成をめざす。	ア・学校教育自己診断（生徒）「勉強することは大切」肯定度を昨年度以上にする。[91%] ・学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」肯定度を85%以上にする。[84%] ・学校教育自己診断（教員）「主体的・対話的な学習指導」実施度 100%とする。[95%]	
	イ 教職員相互の授業見学・研究授業および教員研修等を通して「授業改善」を図る。	イ・授業改善 PT を中心に授業改善に向けて検討を行い、公開授業・研究授業や教員研修等の実施を通して、授業改善・授業力の向上を図る。	イ・学校教育自己診断（生徒）「教え方の工夫」肯定度を 95%以上にする。[92%] ・授業アンケートによる評価の平均値 3.5 以上を維持する。[3. 54]	
	(2) 基礎学力定着に向けた取組みの推進 ア 少人数授業を積極的に取り入れ、基礎学力を効果的に身に付けさせる。	ア・少人数展開授業を取り入れ、基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る。 3 年：国語、数学	ア・学校教育自己診断（生徒）「少人数によるきめ細やかな指導」肯定度を 85%以上にする。[82%] ・少人数展開授業アンケートでの満足度について、昨年度水準を維持する。[3 年：国語 95%・数学 86%] ・学校教育自己診断（生徒）「授業でわからないことは質問できる」肯定度を 75%以上にする。[70%]	
	イ ICT 機器を活用し、個別最適な学びや協働の学びを充実させることで基礎学力の育成・向上を図る。	イ・1 人 1 台端末や電子黒板、プロジェクタ等の活用を通して、能動的かつ思考を重視した授業の推進を図る。	イ・学校教育自己診断(生徒)「教え方の工夫」肯定度を 95%以上にする。[92%] ・教員の授業等での ICT 活用度 100%を維持する。	
	(3) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア「総合的な探究の時間」を活用したキャリア教育を計画的に実施し、進路指導を充実させる。	ア・1.2 年生での取組みを通して描いてきた自身のキャリアデザインをもとに進路目標を明確にさせ、早い段階から進路実現に向けた取組みを図る。	アイウ ・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」肯定度 85%以上を維持する。[93%] ・学校斡旋就職 1 次内定率 85%以上を維持する。[88%] ・4 年制大学希望者の現役合格率 90%以上にする。[85. 7%]	
	イ 多様な進路に対応するため、就職指導・進学指導・キャリア支援等の取組みを充実させる。	イ・ 就職指導・進学指導・キャリア支援等の取組みを充実させることに加え、生徒支援委員会や SC・SSW とも連携を密にすることで、進路実現に向けて困難を抱える生徒に対しても適切な指導・支援を行う体制を充実させる。		
	ウ 希望する進路の実現に向けて、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。	ウ・始業前に「朝学習」を実施し、社会で必要とされる基礎学力の育成・向上を図る。		

2 生徒支援体制の整備と豊かな人間性の涵養	(1) 一人ひとりへの支援体制の強化 ア 生徒が安心して相談できる環境をめざして、課題を抱える生徒の状況を生徒支援会議での確に把握・支援できる体制を推進する。	ア・学習を含め課題を抱える生徒の状況を生徒支援会議での確に把握し、指導・支援できる体制を推進する。	ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）「親身に相談に応じてくれる」肯定度を昨年度以上にする。[84%・82%] ・学校教育自己診断(保護者)「相談に適切に応じてくれる」肯定度を 80%以上にする。[79%]	
	イ 生徒一人ひとりに必要な支援を行うために積極的に外部機関との連携を図る。 (2) 生徒の「規範意識」「自己有用感」「人権意識」の醸成 ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。 イ 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。 ウ 「総合的な探究の時間」を中心に、3年間を見通した人権教育・国際理解教育を行い、人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。	イ・SC を活用した教育相談窓口の充実を図り、生徒一人ひとりへの細やかな対応を行うことに加えて、SSW を積極的に活用し、子ども家庭センター（子ども相談所）や各市町村の福祉関係機関などとの連携強化を図ることで、不登校等を減少させる。 ア・生活習慣の確立をめざす取組みを全教職員で行うとともに、「支える生徒指導」の実践を通して生徒が安全で安心して学べる環境を維持・発展させる。 イ・体育大会、文化祭等の学校行事において、生徒が主体的に企画・運営・参画できるよう取組みを充実させる。 ウ・いじめや SNS をめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。 ・「総合的な探究の時間」の年間計画の中で、国際理解学習を計画的に取り入れる。	イ・学校教育自己診断（生徒）「学校に行くのは楽しい」肯定度を 80% 以上にする。[74%] ・中退する生徒を「0」にする。[5名] ア・生徒一人あたりの平均遅刻回数 1.7 回以内にする。[2.3 回] ・学校教育自己診断（生徒）「生活指導」肯定度 90%以上を維持する。[95%] イ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事」参加肯定度 80%以上を維持する。[86%] ウ・学校教育自己診断（生徒）「人権教育」肯定度 90%以上を維持する。[96%] ・学校教育自己診断（生徒）「国際理解学習」肯定度 85%以上を維持する。[86%]	
3 安全・安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒が安全に安心して生活できる環境づくり ア PTA と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。 イ 保護者への積極的な情報提供・発信に取り組むとともに、個人情報の適正管理を徹底する。 ウ 地域との連携を通して、様々な安全教育に取り組む。 (2) 地域に貢献できる人材の育成 ア 「総合的な探究の時間」を通して、地域に貢献できる人材を育成する。	ア・PTA と連携し、快適で充実した教育環境整備並びに校内の緑化活動を推進する。 イ・緊急時や非常変災時の対応もふまえたうえで、日常から学校情報を HP やメール配信等により保護者へ迅速かつ適切に発信する。 ・職員研修を行うとともに、日頃から教職員の意識を高めることで個人情報の適正管理を徹底する。 ウ・地域の外部機関等との連携を通して、熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等、生徒の安全や安心を高める取組みを行う。 ア・「総合的な探究の時間」で地域が抱える課題に対して、生徒が地域と解決に向けた取組みを行う。	ア・学校教育自己診断「施設・設備」満足度を 60%以上にする。[生徒 70%、保護者 57%] イ・学校教育自己診断(保護者)における「HP・メール」利用度を 70%以上にする。[62%] ・学校教育自己診断(生徒)における「個人情報の適正管理」肯定度 95%以上を維持する。[96%] ウ・外部機関等との連携を通して、生徒の安全や安心を高める取組みを 4 回以上行う。 ア・「総合的な探究の時間」を活用し、地域の課題解決に向けた取組みを行う。	

4 学校力の向上と働き方改革の推進	(1) 教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理や健康管理を徹底させる。 (2) 教職員が、ともに助け支え合う働きやすい職場環境をつくる。 (3) 機能統合による閉校に向けた取組みとともに教育環境の向上・充実を図る。	・ 業務の削減・効率化を図ることにより、職員の時間外在校等時間を縮減する。 ・ 教員数が大幅に減少する中、ともに助け支え合うような、心身ともに働きやすい職場環境づくりをめざす。 ・ 閉校に向けた各種取組みを進めるとともに、本校の強みを生かして教育環境の一層の向上・充実を図る。	・ 職員の時間外労働月平均時間 20 時間以下を維持する。[14. 1h] ・ 時間外在校等時間が月 45h 以上の職員数を減少させる。[のべ人数 8 名] ・ 学校教育自己診断(教員)における「教育活動について話し合っている」肯定度を 90%以上にする。[86%] ・ 学校教育自己診断(教員)における「校長は自らの考えを明らかにしている」肯定度を 85%以上にする。[76%]	
----------------------	---	---	--	--